

金曜コラム - 2019.7.5**国家スポーツパラダイムの革新！体育改革促す！全国体育系列スポーツ関連学科教授声明書**

*本日の金曜コラムは 2019 年 7 月 2 日に発表された声明書に代えます。

今年の初め、オリンピック金メダリストの暴力、性暴力疑惑事件という前代未聞の事態に対して、加害者と被害者の両方の師であった体育科教授達は惨憺たる気持ちを禁じえません。また、今回の事態が必要と領収書一人の国家代表チームコーチの突発的逸脱ではなく、歪曲されたエリート選手育成システムから始まった構造の弊害という点、そしてその構造的な問題について知らなかったが長い間放棄してきた点について重い責任を痛感します。

過去半世紀の間、国威とメダル獲得という大義名分に隠れて咲くこともできず、私たちの社会の最底辺に墜落した数多くの若い選手たちを見てきました。運動選手という道に入るやいなや運動以外の他の選択肢がない一筋の人生を余儀なくされ、人間として当然享受すべき教育から排除されたまま、非常に短い選手生活が終わると広くて果てしない現実と向き合う必要がある生き方。果たして誰の責任でしょうか？

去る 2 月 11 日、15 人の民間委員と 5 人の当然職委員で構成されたスポーツ革新委員会が発足しました。これ以上このままではいけないという国民的な熱望と、今回でなければ再び変更することができないという切迫感から熱心に活動しています。その結果、5 月 7 日に最初の「スポーツ性暴行被害者の保護・支援システムの確立と政府と体育界人権侵害対応システムの全面革新勧告」を発表し、次いで 6 月 4 日、2 次「学校スポーツ正常化のための選手育成システムの革新と一般学生のスポーツ参加活性化勧告」を出しました。先週には、3 次「みんなのスポーツ (Sports for All) : ス

ポーツ人権を促進し、すべての人のスポーツ・身体活動への参加拡大のための政策勧告」と 4 次「すべての人のスポーツ権を保障するためのスポーツ基本法の制定勧告」を同時に発表しました。

特に三番目の勧告は過去の国家主義的、勝利至上主義的パラダイムから抜け出し、民主主義、人権、正義、平等、多様性など普遍的な価値に基づく新たな国家スポーツパラダイムに転換することを強く要求しています。これまで散発的に行われてきた国民のスポーツパラダイムの本格的な技術革新を具体的に提案したものです。ところが革新委の普遍妥当な、しかしこれ以上先送りできない勧告について、一部エリートスポーツ界は強く反発しています。学生選手の本分は選手ではなく、学生だという極めて常識的な勧告を、運動する選手に対する反人権的暴力と罵倒して、少年体育大会拡大改編の勧告を廃止だと塗り替えて、エリートスポーツを殺すという歪曲した主張をしています。

20 年前、私たち体育関連の教授は、勉強するのだと選手村を出た若い中学生選手を懲戒にした国家主義パラダイムに対して強い疑問を提起したことがあります。初めて 200 人を超える教授らが参加して、時代の流れに逆行するスポーツ界を叱咤しました。

20 年ぶりに国家スポーツパラダイムの大転換を控え、再び声を集めなければならいと心を集めました。これに全国の体育関連の教授は次のように要求します。

一、大韓体育会は今がスポーツ改革のゴールデンタイムであることを自覚し、スポーツ改革に反する一連

の罵倒と歪曲をすぐ止めろ！

一、政府はエリートスポーツ、学校スポーツ、生活スポーツの均衡的發展のために国家主義的スポーツパラダイムを転換せよ！

一、政府はすべての国民がスポーツを楽しむことができる政策を施行せよ！

2019年7月2日

改革を要求する体育教授代表

カン・シヌク、ナ・ヨンイル、イ・グンモ、チェ・ジェウオン

01 ソウル新聞 2019. 7. 4

【 “韓国体育はすべての選手をキム・ヨナ・柳賢振のように訓練させて” 】

(訳注：柳賢振リュウ・ヒョンジン：投手。韓国プロ野球から直接 MLB に移籍した初の韓国人選手)

スポーツ革新委員会が5月からスポーツ界の構造改革のために発表している勧告案についてエリートスポーツ界の反発が強まる中、全国体育学科の教授らが国民のスポーツパラダイムの革新と体育改革を促して立ち上がりました。

国内の大学スポーツ学科教授は2日、ソウル中区プレスセンターで記者会見を開き、国家主義と勝利至上主義のスポーツパラダイムを民主主義と人権、公正、平等、多様性に転換することを促す宣言を発表しました。教授194名は宣言文で「大韓体育会はスポーツの改革に反する一連の罵倒と歪曲をすぐに止めろ」とストレートに批判しました。

カン・シヌク壇国大教授は「スポーツ界が同意するのは、現在韓国のスポーツに問題があり、これを変えなければならないということ」とし、「エリート体育人が合宿廃止や週末の大会への移行になぜ反対するかを理解できない」と言いました。金サンボム中央大教授は「私たちの国の地位に照らしてみると、現在の体育システムはもう似合う服ではなく、今、新しい服に着替えなければならない」とし「不幸な事態が繰り返されるのは防がなければならない」と強調しました。

バスケットボール選手出身のイム・ヨンソク忠北大教授は「運動選手のなかでキム・ヨナやリュ・ヒョンジンのように訓練させるのは10%にもなりません。しかし、韓国体育はすべての選手をキム・ヨナやリュ・ヒョンジンのように訓練させる。結局、90%の運動選手を不幸に追いやっている」と批判しました。彼は既成体育が主張する「既存の成果を無視する」という指摘に対して、「多くの学生選手が成績を出すために多くのことをあきらめなければならない。革新委がそのような（異常な状況を）正常化させなければならない」と反論しました。

チェ・ジェウオン中央大教授は「エリート体育育成システムを変えようということであって、エリート体育を追い出そうというのではない」とし「学生選手が楽しんで成長していくシステムの中で、エリート選手たちが排出されなければならない」と言いました。

原文出所：<http://www.seoul.co.kr/news/newsView.php?id=20190703031023>

02 中央日報 2019. 7. 4

【 '選手暴行' コーチ再任した自治体... 反対すれば今後再契約不利益の警告も 】

所属選手を暴行したコーチを再採用した地方自治体の行為が人権侵害だという国家人権委員会の判断が出ました。4日人権委は市庁が所属実業チームAコーチの選手暴行及び飲酒強要及び暴言等の前歴を知っていたのに1年後にAコーチを再採用したのは人権侵害行為だと判断しました。これについて、運動部指導者などを採用する際に暴力及び性的暴行の前歴がある人に対する資格要件を強化することを勧告したと明らかにしました。

去る3月、大統領府の国民請願掲示板には「金海市庁フィールドホッケーチームを救う」という請願が上がってきました。請願人は「金海市庁フィールドホッケー（成人チーム）チームのコーチに暴行された選手が負傷して選手生活までやめる状況に直面している」とし「このようなコーチを金海市役所では指導者として再び採用し、現在のチームが解体の危機に直面している」と主張しました。

この事件に対する陳情が人権委に提出され、今年2月構成されたスポーツ人権特別調査団（特調団）が調査に着手しました。その結果、▶Aコーチが選手たちに暴行と暴言をしたり、会食の席で飲酒を強要し▶市庁担当公務員がAコーチの採用に反対する選手たちに「今後再契約評価に反映する」という警告状まで公式発行したという事実が明らかになりました。

人権委によると、Aコーチは2015年から17年までのホッケーチームのコーチを務め、18年にチームを去ったが、19年に再び採用されました。このとき市庁は独自の調査の結果、2017年12月にはすでにAコーチの暴行の事実をすべて知っていたというのが人権委側の説明です。

この過程で市庁所属B課長は積極的にAコーチの採用を推進しました。通常、コーチ陣は当該チーム監督の推薦により採用されますが、監督にAコーチの推薦を強要したり、再採用に反発する選手たちに「殺人者や窃盗者でなければ再採用できる」という趣旨の発言をしたことが確認されました。

人権委によるとAコーチはすでに2015年に選手を暴行して告訴されて暴行罪で罰金50万ウォンの処分を受け、17年には他の選手に悪口を言って拳で胸の部分の打った後、胸ぐらをつかむなど、大小の暴行事件に関与した前歴があります。

今回の調査でスポーツ界の内部自浄システムが正常に動作していないという事実も明らかになりました。Aコーチに被害を受けた選手が大韓体育協会スポーツ公正委員会に苦情を申し立てましたが、これは、その地域の体育協会に文書通知され、最終的には「無嫌疑」という結論が出ました。人権委の関係者は「通常、暴行の場合1年以上の資格停止処分が出てくるが、無嫌疑が出てきたのは首をかしげる結果」と言いました。

今回の事件は人権委が昨年2月25日、スポーツ人権特別調査団を発足させた後、スポーツの分野で提起された60件の陳情事件の最初に勧告までした事件です。

原文出処 <https://news.join.com/article/23515342>

03 京郷新聞 2019. 7. 4

【 '幼少年違法ステロイド' プロ野球に火の粉 】

幼少年野球教室で始まった「違法ステロイド」波紋がプロ野球まで広がっています。ユース野球選手た

ちに違法ステロイド薬を投与して拘束された元プロ野球選手の弟子のうち、現職プロ野球選手がいることが確認されたためです。保健当局は彼らについても調査を行う予定です。

食品医薬品安全所（以後、食薬所）は3日、ソウル地方食品医薬品局（FDA）からブリーフィングを開き、このような内容の事件調査結果を発表しました。先に、食薬所は大学進学やプロ野球入団を目指すユース野球選手たちに違法ステロイドと男性ホルモンなどを注射したり、販売したりした疑いで幼少年野球教室運営者である李某氏（35）を拘束しました。

食薬所は李某氏の弟子たちのうち、プロ野球チームに入団して活動している選手が2人いることを確認し、この選手たちも参考人として調査する計画だと明らかにしました。李某氏が摘発された当時持っていた薬の容器の外側には、投与を受けたと推定されるユース選手の名前が書かれていました。

これにより追加の調査結果に基づいて薬物を投与したユース選手は増える可能性があります。現在、食薬所は違法ステロイドを投与された疑いがあるユース選手が7人ほどであると見ています。ドーピングテストの結果、2人は投薬が確認されました。

また、ユース選手の保護者に対する調査も継続する予定です。食薬所の関係者は「現在、摘発された学生の親たちは騙されたと言っているが、彼らについても（意図があったのかを確認するため）参考人調査を行う計画だ」と言いました。

食薬所は李某氏が国内現役ボディビル選手から違法薬物を受けとり、講習費の名目で1回当たり300万ウォンずつ受けとって薬を選手たちに投与したことが調査されたと明らかにしました。彼が1年間に得た金だけでも1億6000万ウォンです。李某氏は元野球選手とドーピング検査の原理を把握して、ステロイド製剤の体内残留期間を計算して投与するなど、緻密に取り締まりを避けることもしました。

食薬所はボディビルダーが違法薬物の投与を自ら告白する「薬投」波紋があつたうえ、違法ステロイド薬物について企画捜査（注：特定人物を狙って長期間捜査を行う手法らしい）を行い、元プロ野球選手李某氏の場合を含む全20件の違法投薬を摘発したと伝わりました。食薬所は確保された販売対象者名簿をドーピング防止委員会と共有し、運動選手の場合はドーピング結果に基づいて捜査を拡大する予定です。

これまで違法薬物は主に海外から輸入されて流通されてきましたが、今回の捜査の結果、国内で注射剤を不法製造する事例も確認されたと伝えられました。ユ・ミョンジョン食薬所危害事犯中央調査団チーム長は、「甚だしくは違法ステロイド薬を作成する方法を教える本を作った人もいた」と明らかにしました。

原文出所：<https://news.naver.com/main/read.nhn?mode=LPOD&mid=sec&oid=032&aid=0002949436>

出典：<https://www.seoul.co.kr/news/newsView.php?id=20190605026002>

INFOMATION

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 1485-3 スンジョンビル 305号

체육시민연대 서울시 서초구 서초동 1485-3 승정빌딩 305호

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net

ホームページ：<http://www.sportscm.org/>

日本語訳：佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com